

花の香り 「世界らん展」 30周年に寄せて

廣瀬清一 事務局

華やかなカトレア、優雅な胡蝶蘭。ランは、美しく、独特の形の花を咲かせる。世界に 700 属 15000 種、日本に 75 属 230 種と種類が多い。花の色、形、香り、葉の姿、模様とその楽しみ方も多様で伝統園芸の文化をもつ我が国では便宜的に洋蘭、東洋蘭という分類が使われる。

洋蘭は、熱帯や亜熱帯に自生するランが欧米で改良され、それが日本に明治以降に入ってきたので洋蘭と呼ばれる。概して花は大きく、美しく、形、色に変化があり、主に温室で栽培される。

東洋蘭は、中国や日本の伝統的な美意識に基づき鉢と共に鑑賞され、ランの姿は控えめだが花は気品にあふれ、上品な香りがある。

ランの愛好家は、洋蘭、東洋蘭といった大きな区分でなく、さらに細かく専門分野があり、それぞれに独自の鑑賞文化を持っている。

例えば、カトレアの原種専門とか、さらにカトレアのワルケリアナに特化した愛好家の団体とか、パフィオ、エビネなどのたくさんのグループがあり、細分化、専門化している。ほとんどはグループ内で活動していて、グループ間の交流は少ない。

このような中、洋蘭、東洋蘭という領域を超え多数のランが一堂に会する画期的なイベントとして「世界らん展 日本大賞」が 1991 年にスタートした。

展示には洋蘭、東洋蘭(春蘭、寒蘭等)、日本の蘭(エビネ、セッコク等)など、様々なランが世界 20~25ヶ国から約 3000 種約 10 万株のランが展示され、さらに個別(日本大賞)、フレグランス、ディスプレイなどの部門に分かれ審査が行われている。

今回、「世界らん展」は 30 周年を迎え、会場中央に 100 万輪の「鮮やかなピンクのオンシジューム」を使って満開の桜を表現したシンボルモニュメント「桜蘭」が飾られ、会場の雰囲気盛り上げていた。



・フレグランス部門(香りの審査)

ランの花は、形や色の外見だけでなく、香りにおいても種類が多い。ローズ、スズラン、ジャスミン、ヒアシンス、シナモン、バニラ、チョコレート、ムスクなど、さまざまな香りの要素が感じられる。

広くランの香りにも関心を持ってほしいと、当時世界らん展の福原義春組織委員長の発案により花の香りを審査する「フレグランス部門」が導入された。具体的な香りの審査方法については、中村祥二氏が中心となり蘭の専門家と香りの専門家が集まり、模擬審査を繰り返して定められた。この斬新な試みは、他の蘭展でも取り入れられるようになった。

審査員は、蘭の専門家と香りの専門家から構成され、審査の全体の流れ、多くのジャンルのランの香りの審査する経験を経て正式に審査員となる。わたくしは、第 6 回 1996 年より審査に加わった。

具体的な香り審査の手順は、まず、洋蘭では5カテゴリー（カトレア、デンドロビューム、ファレノプシス、リカステなど）、東洋蘭と日本の蘭では6カテゴリー（春蘭、寒蘭、報歳蘭/春寒蘭、エビネ、長生蘭/富貴蘭など）に分けて、審査項目に従って評価を行う。評価は、香りの上品さ、高貴さ、やさしさ、ソフトさ、親しみ易さ、華やかさ、新鮮さ、爽やかさ、清楚な、清々しさ、新鮮さ、透明感、バランスなどいろいろな要素を「強さと拡散性」「香りの上品さ・華やかさ・新鮮さ」「新規性」の3項目に集約して点数評価する。

こうして、それぞれのカテゴリーにおける香りのよい花が選ばれた後に、さらに2つのグループより4作品ずつに絞りこんで、8作品より部門賞を投票で決めている。

この最終段階になると、香りのタイプや審査員の属性は、評価にほとんど関係なくなる。良い香りを持っているという素質だけではだめで、この2月の東京ドームでの審査時にいかに本来のポテンシャルが発揮されているかが競われる。審査前の天候も影響してくる。

実際、この30年間の最優秀賞、優秀賞、優良賞の合計数は、洋蘭44作品、東洋蘭と日本の蘭46作品とほぼ同数となっている。

そもそも、原種の野生株を求めた東洋蘭の香りは日本人の好みに合っている。もっと優位な結果であっても不思議ではない。しかし、実際、ほとんどの東洋蘭は、この2月には花がない。寒蘭の開花期は11-12月で間に合わないし、春蘭、エビネは3-5月と開花にはまだ早い、香りの良い風蘭は6-8月と休眠期に当たる。

このような厳しい条件の中、開花調整のダメージを受けるのを承知した上で作品を出品していると聞く。もし、それぞれのランの開花時期に審査が行われていれば、また違った結果になっていると思われる。こうした厳しい条件の中でのエントリーであり、参加したすべての作品に敬意を表したい。

「世界らん展」の審査部門は、まさに過酷なコンテストの場となっている。



「フレグランス部門 最優秀賞」

Rlc. Memoria Bob Crowder 'Yellow Ribbon'

写真提供 城市篤氏

今年のフレグランス部門には、例年とほぼ同じ数の110作品が出品された。審査時間が午後に変更されて2回目となる。今年の暖冬が影響したのか、前年に比べて洋蘭がよく香っていた。

今回は黄色大輪の *Rlc. Memoria Bob Crowder 'Yellow Ribbon'* が最優秀賞を獲得した。ヒヤシンス様の瑞々しさとユリ様の甘さに加え、トロピカルな南国のマンゴスチンやパパイヤ様のフルーティが感じられ、香り全体のバランスが良い、華やかで魅力的なカトレアの香りであった。

参考文献

- 1) 塚谷裕一 「蘭への招待-その不思議なかたちと生態」 集英社新書
- 2) 井上治三郎 「香りの審査の歴史」 ORCHIDS 全日本蘭協会 No. 59 2020 AJOS
- 3) 中村祥二 「香りの良い蘭 世界らん展日本大賞 入賞花の香りを中心にして」 香りと暮らし NOW 企画
- 4) 東京ドーム HP 「世界らん展 2020-花と緑の祭典-」